

神奈川県西部地域総合都市交通体系調査
～社会経済情勢の変化～
交通を取り巻く社会経済状況、上位・関連計画等

平成25年5月23日(木)

1. 人口動向

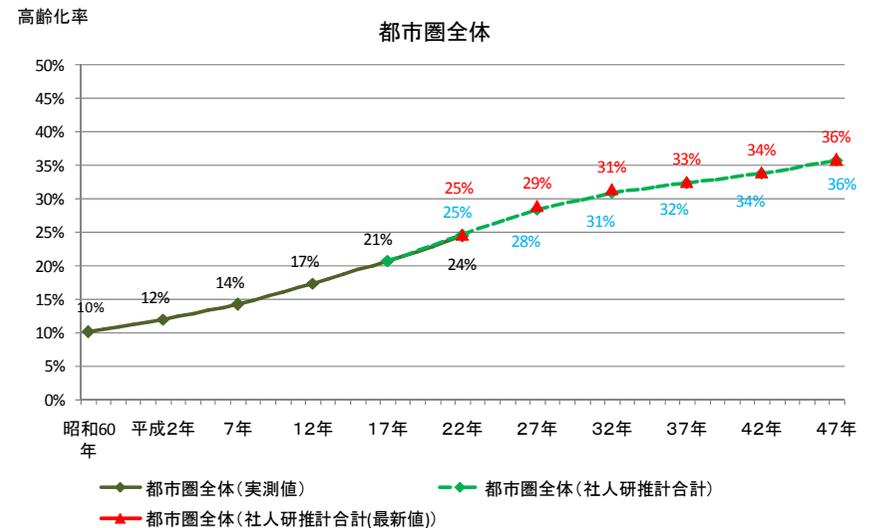
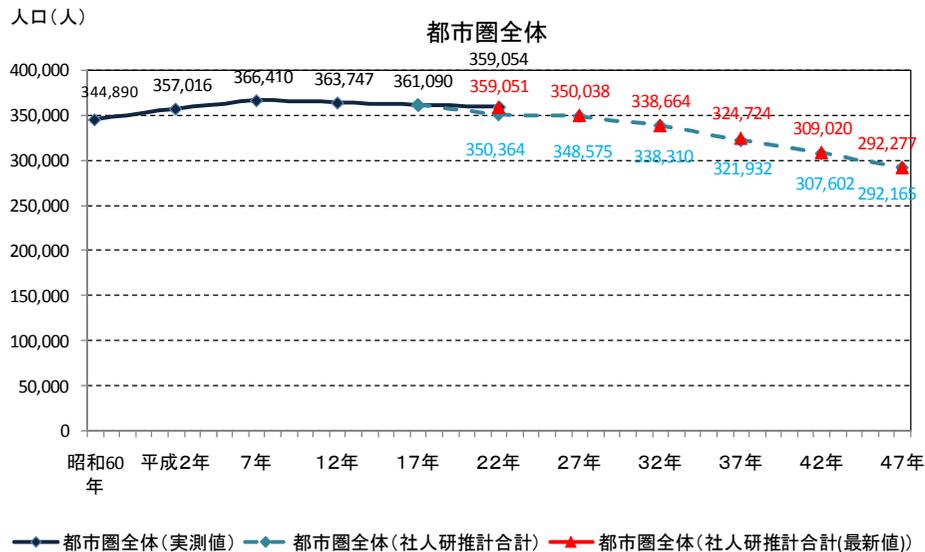
○人口減少の進展

- ・県西部地域の都市圏人口は、平成7年をピークに減少に転じている
- ・平成42年には30.9万人となり、平成22年の35.9万人から約5万人減少すると見込まれる

○超高齢社会の進展

- ・65歳以上の高齢化率は平成42年には34%となり、3人に1人が65歳以上の高齢者となる

■ 夜間人口・高齢化率の将来動向



注1)実測値:各年「国勢調査」

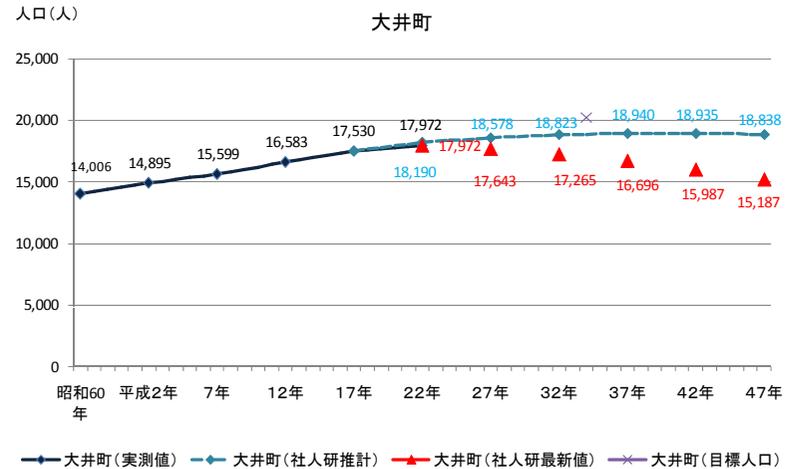
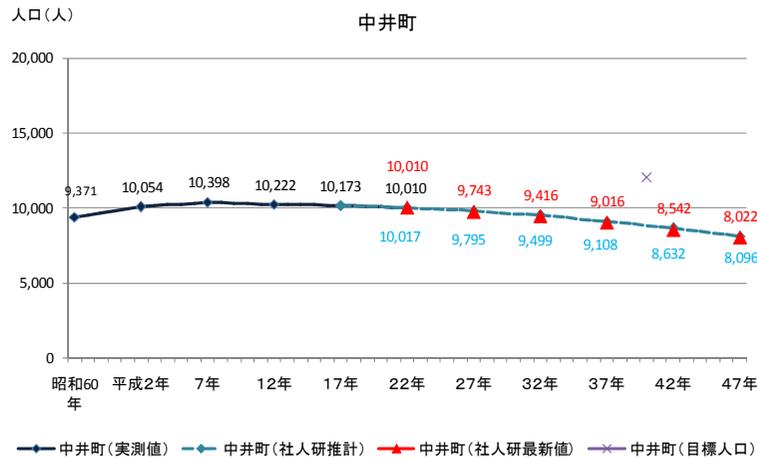
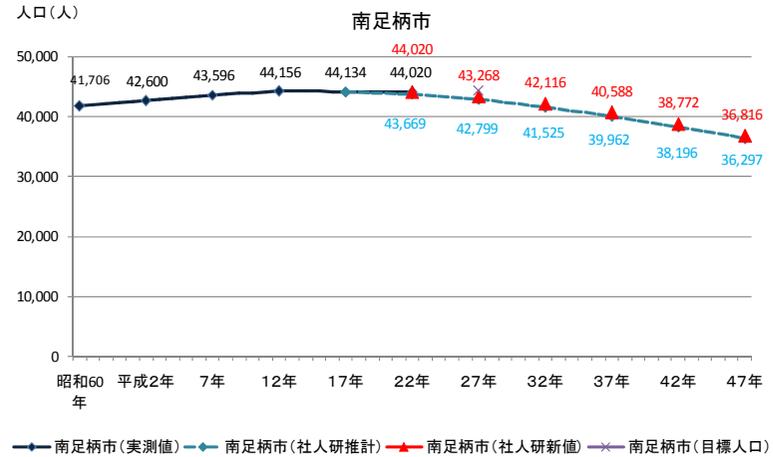
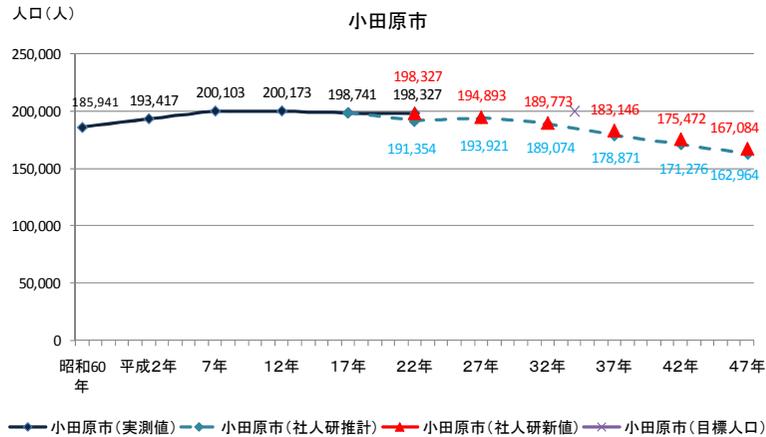
2)社人研推計:日本の地域別将来推計人口(平成20年8月)、国立社会保障・人口問題研究所

3)社人研推計(最新値):日本の地域別将来推計人口(平成25年3月)、国立社会保障・人口問題研究所

○主要拠点の多くが人口減少

- ・平成22年時点で、開成町、大井町を除き、人口減少傾向となっている
- ・最も人口の多い小田原市でも、今後20年間で2万人強減少すると見込まれている

■ 地域別夜間人口の将来動向(1/2)



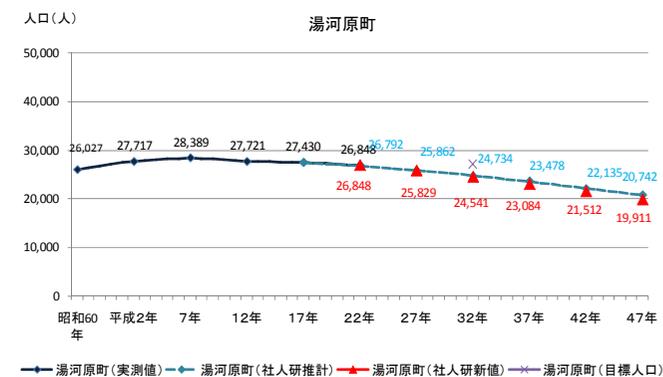
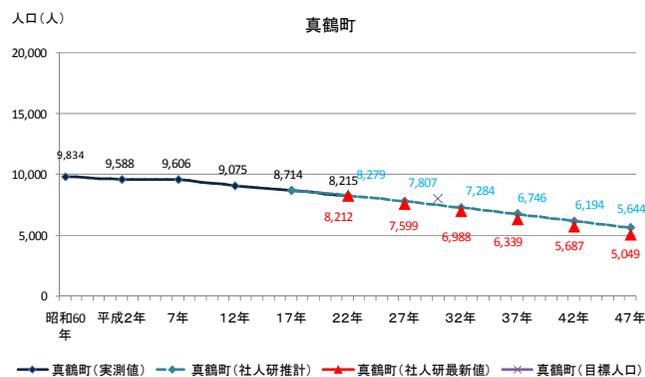
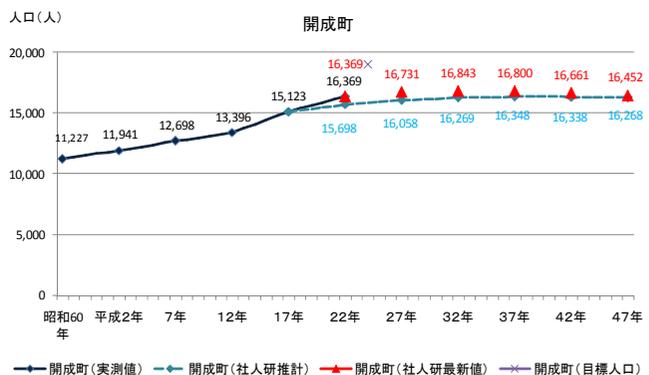
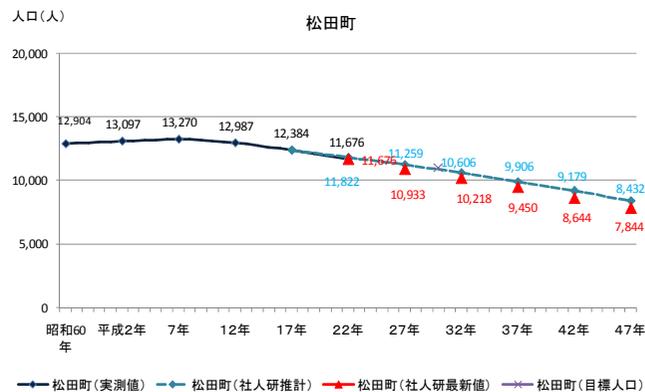
注1) 実測値: 各年「国勢調査」

2) 社人研推計: 日本の地域別将来推計人口(平成20年8月)、国立社会保障・人口問題研究所

3) 社人研推計(最新値): 日本の地域別将来推計人口(平成25年3月)、国立社会保障・人口問題研究所

4) 目標人口: 各市町の計画人口(目標人口)

■ 地域別夜間人口の将来動向(2/2)



注1) 実測値: 各年「国勢調査」

2) 社人研推計: 日本の地域別将来推計人口(平成20年8月)、国立社会保障・人口問題研究所

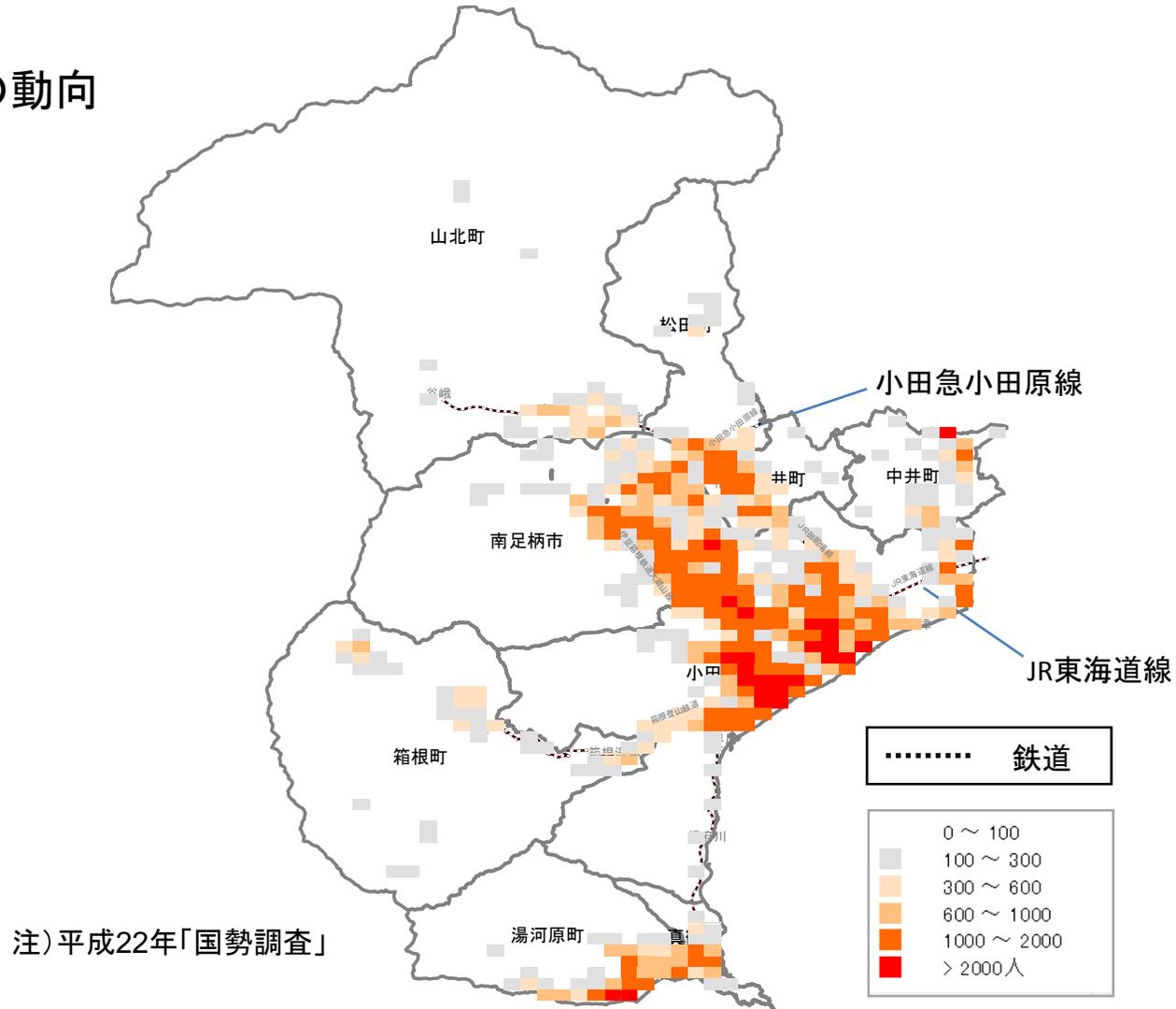
3) 社人研推計(最新値): 日本の地域別将来推計人口(平成25年3月)、国立社会保障・人口問題研究所

4) 目標人口: 各市町の計画人口(目標人口)

○鉄道駅を中心とした人口集積

- ・小田原駅を中心として駅周辺を中心に人口集積が見られる
- ・特にJR東海道線、小田急小田原線沿線に人口が多く張りついている

■夜間人口の動向



注)平成22年「国勢調査」

2. 高齢社会と交通

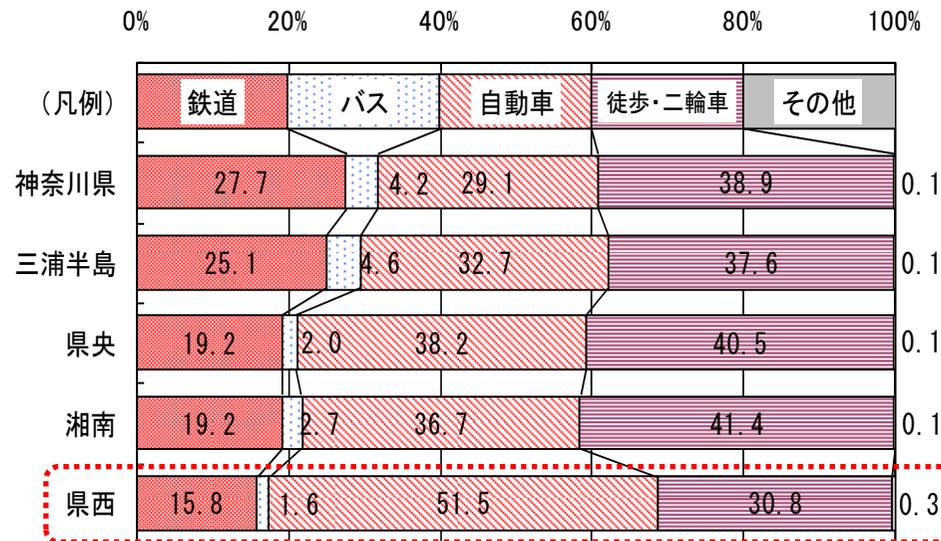
○高い自動車依存

- ・県西部地域は県内でも自動車利用率が高い地域である
- ・近年では、バス路線の廃止や縮小などバスのサービス水準が低下している

○自動車を運転できない高齢者への対応

- ・自動車を運転できない高齢者が増加することが予想され、公共交通の利便性を確保しながら、過度に自動車に依存しない交通体系を構築するなど、高齢者のモビリティを確保することが必要である

■全トリップに占める代表交通手段の割合



注) 東京都市圏交通計画協議会「第5回(平成20年)パーソントリップ調査」

■バス路線の廃止、減便等の状況

単位: 路線

	廃止	減便等	合計
三浦半島	0	0	0
県央	3	1	4
湘南	1	2	3
県西	3	17	20

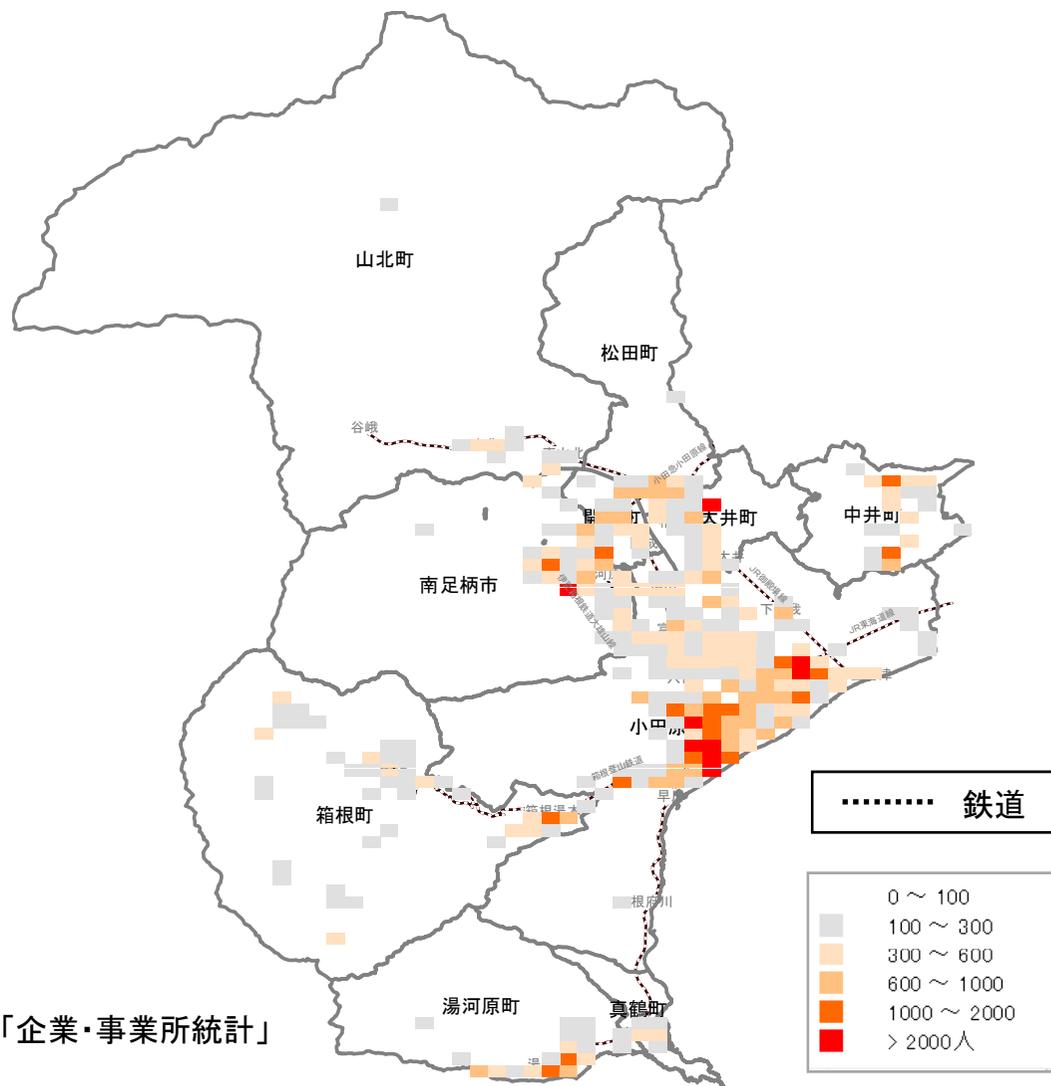
注) 神奈川県生活交通確保対策地域協議会(2004(平成16)年度~2008(平成20)年度)

3. 産業動向

○拠点は小田原駅周辺に集積も各所に点在

- ・小田原駅周辺に従業人口が多く張りついている
- ・国府津駅と鴨宮駅間や南足柄市や中井町の一部地域に従業規模の大きいエリアが点在

■従業員数の動向

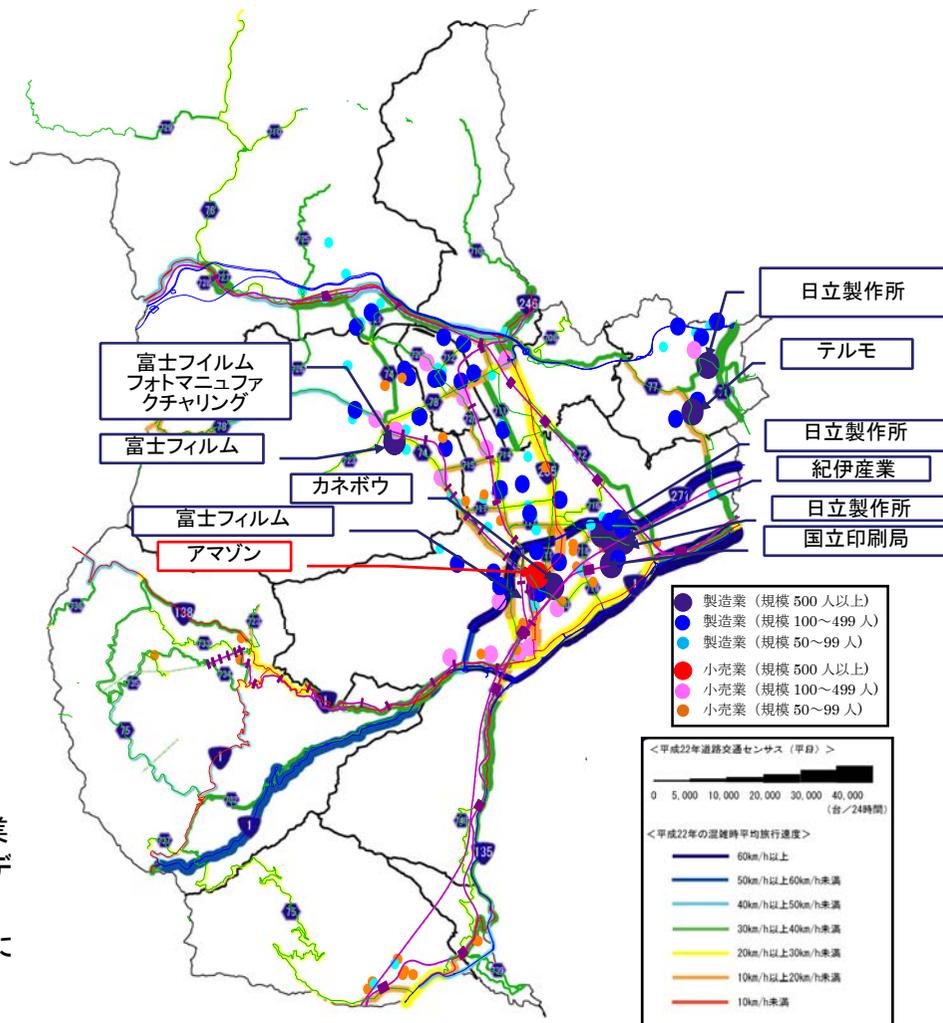


注)平成18年「企業・事業所統計」

○道路混雑による産業活動の阻害、産業構造の転換が発生

- ・小田原駅周辺や鴨宮駅周辺、南足柄市や中井町の一部等に事業所が多く立地している
- ・大規模事業所に隣接した幹線道路の多くは混雑しており、産業活動の阻害となっている
- ・旧工場跡地等に新たな施設が立地するなど、産業構造の転換がみられる

■事業所の立地動向

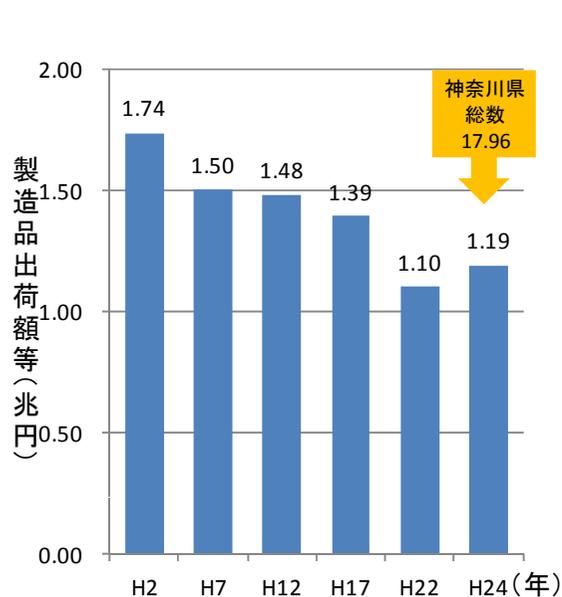


- 注1) 事業所は従業者数が50人以上の全業の事業所をプロット (民間調査機関のデータに基づき作成)
- 2) 背景図は平成22年道路交通センサスに基づき作成

○産業経済の低迷

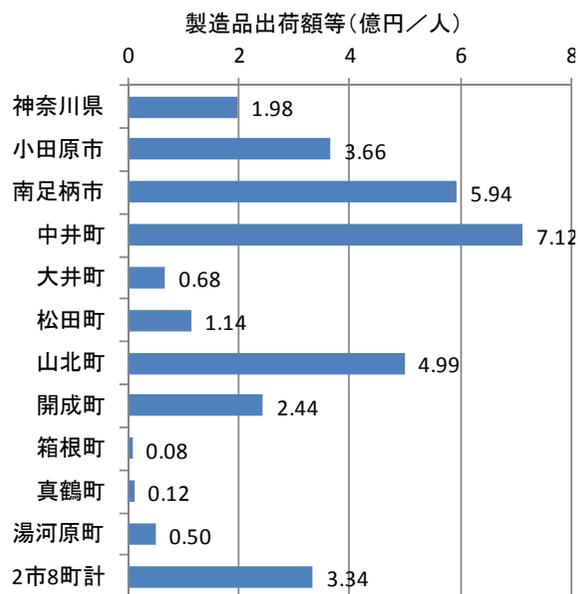
- ・平成24年における2市8町の製造品出荷額等は約1兆2千億円。近年は漸減傾向であったが、平成24年は増加
- ・夜間人口一人当たり製造品出荷額等は中井町が7.12百万円で最も多い
- ・平成19年における2市8町の商品販売額は約6,200億円、一貫して漸減傾向

■ 製造品出荷額等の推移



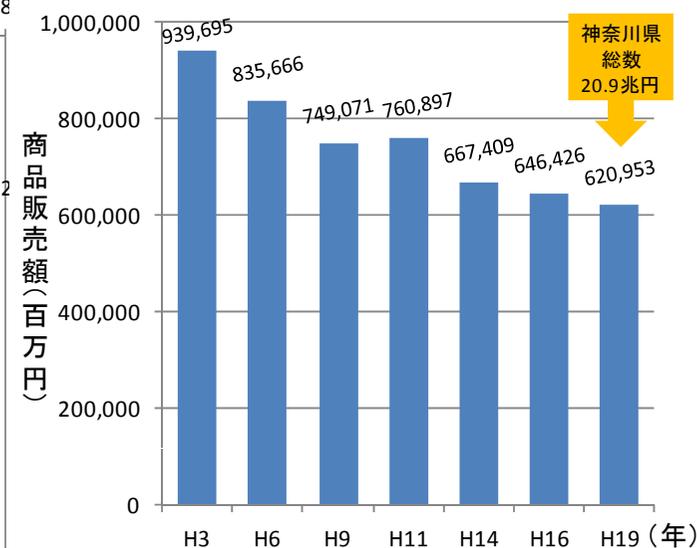
注) 工業統計調査(H2~H22)、
経済センサス(H24)

■ 市町別夜間人口一人当たり製造品出荷額等



注) 経済センサス(H24)、
神奈川県推計人口(H24.2.1)

■ 商品販売額(卸売業+小売業)の推移



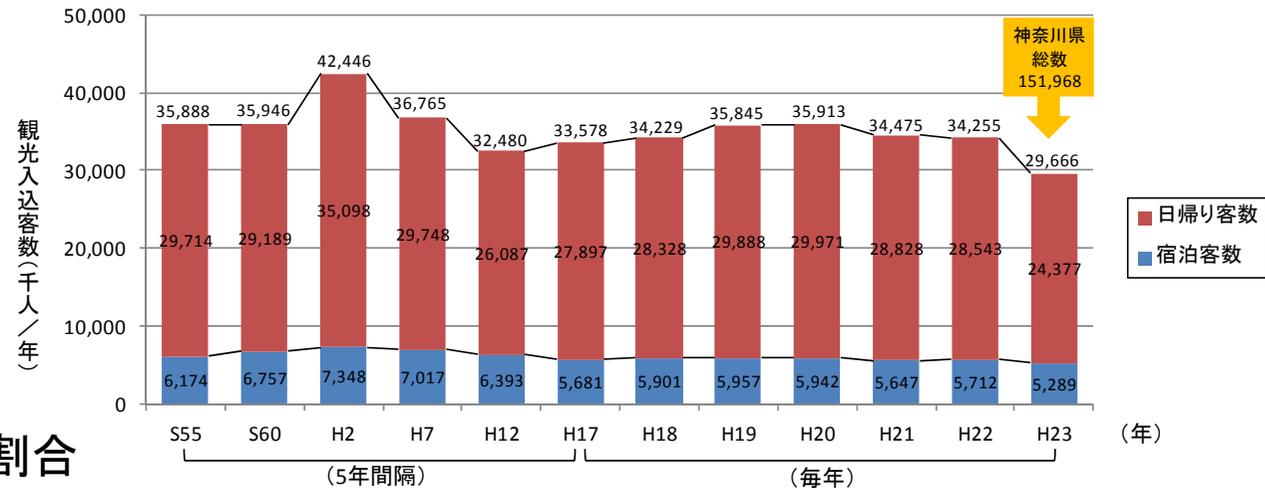
注) 商業統計

4. 観光動向

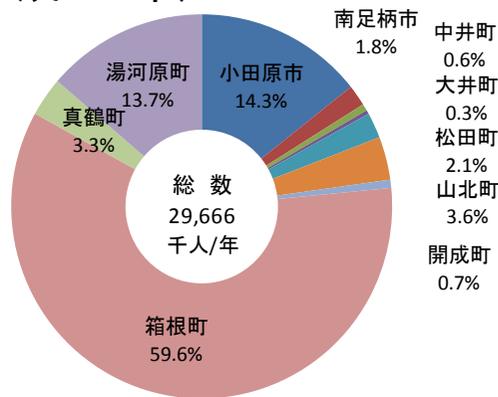
○高い観光ポテンシャル、外国人観光客の増加

- ・平成23年の2市8町計観光入込客数は約3千万人で、県全体の約2割を占める
このうち、箱根町への入り込みが約6割を占める
- ・外国人観光客の割合は増加傾向(H23は東日本大震災の影響もあり減少)

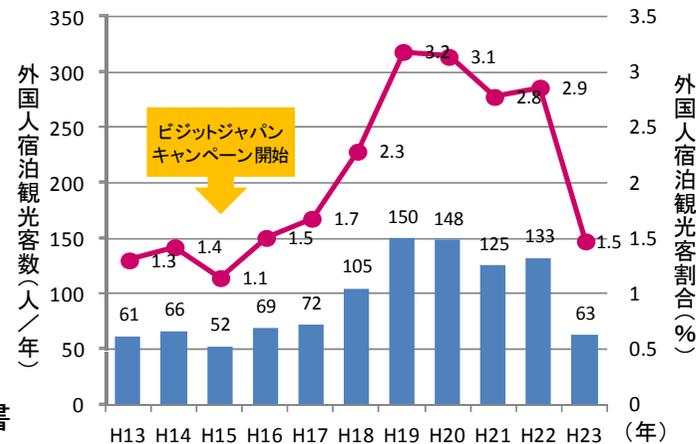
■観光入込客数の推移



■市町別観光入込客割合 (平成23年)



■箱根町外国人宿泊観光客数・割合の推移

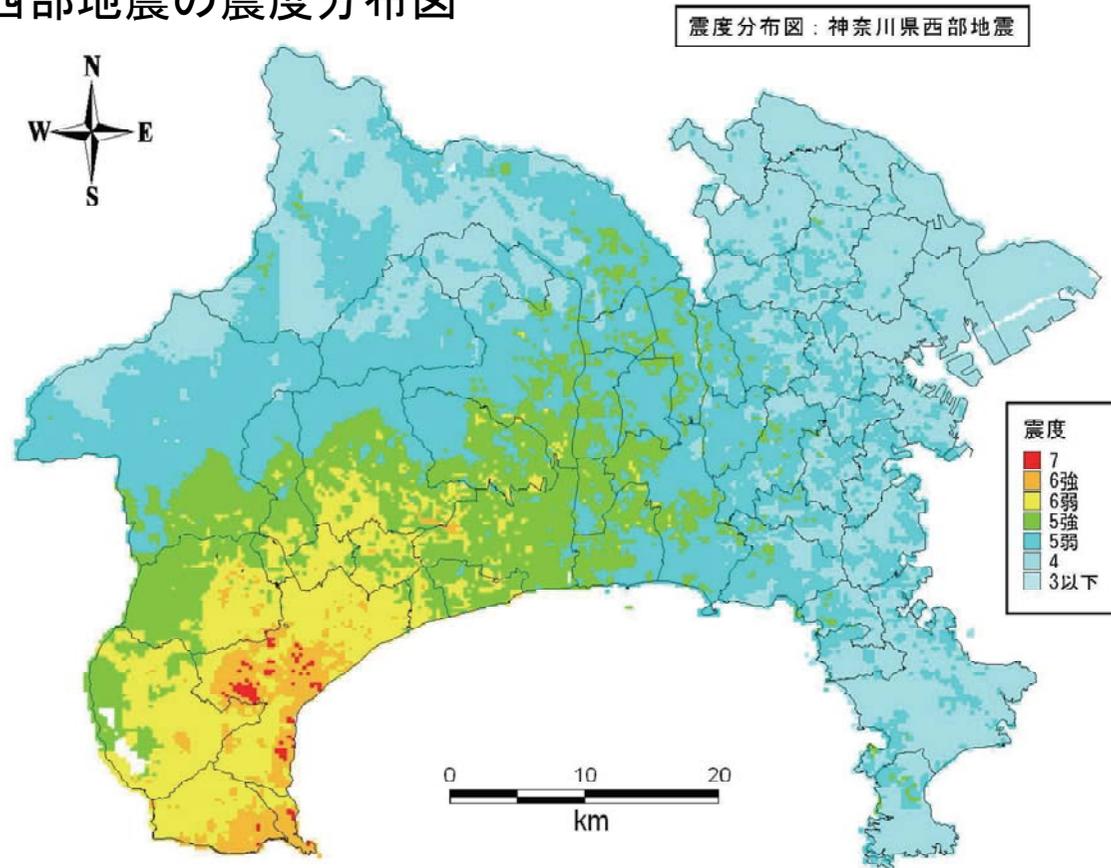


5. 地震への対応

○切迫性が指摘されている大規模震災

- ・東海地震や神奈川県西部地震の切迫性が指摘されている。
- ・地震では、崖崩れや火災、津波なども発生し、甚大な被害が予想されている。
- ・地震災害から地域住民や観光客を守る、災害に強い都市づくりが必要である。

■神奈川県西部地震の震度分布図



注)神奈川県地震東想定調査委員会「神奈川県地震被害想定調査」(平成21年3月)

6. 土地利用

○3つの特徴的な土地利用

- ・県西部地域の土地利用は、市街地・市街地近郊は小田原市、南足柄市、開成町、大井町、真鶴町等に多い
- ・田園・里山等は小田原市や中井町、大井町等に多い
- ・山地・森林、水源の森等は南足柄市、山北町、松田町、箱根町、湯河原町等に多い

■土地利用の現況



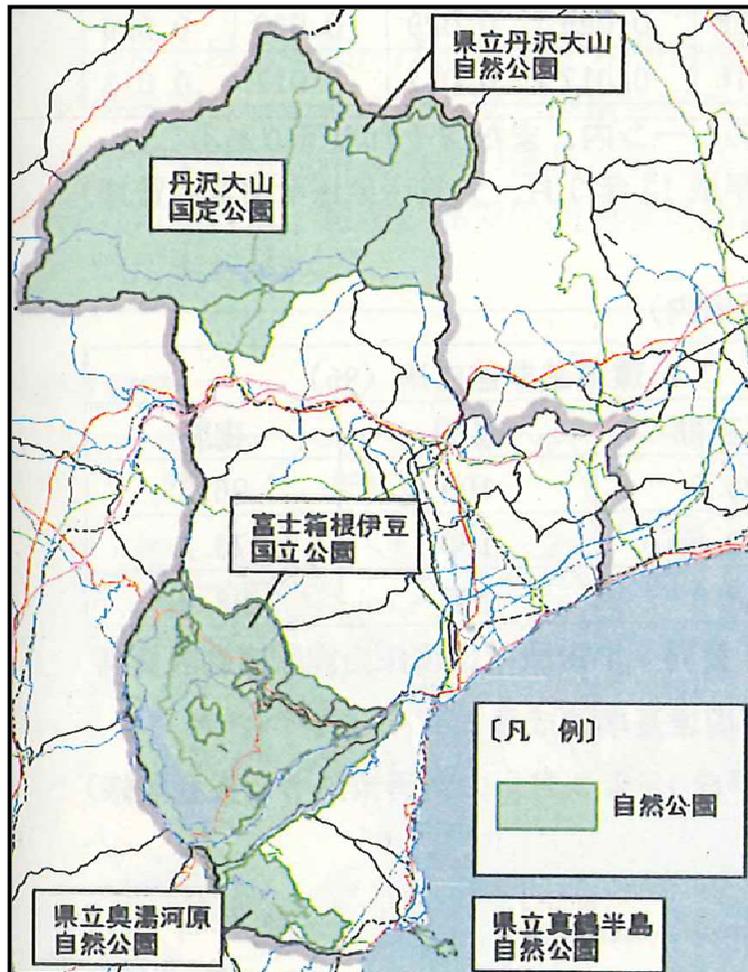
注) 県西地域市町合併に関する検討報告書より

7. 自然環境

○恵まれた自然環境

- ・県西部地域には、県内の自然公園の約55%が集積している
- ・年間2,480万人以上の自然公園利用者が訪れている

■自然公園指定状況



■自然公園の利用者数

種別	名称	利用者数(千人)		
		H21	H22	H23
国立公園	富士箱根伊豆国立公園	19,649	20,036	17,671
国立公園	丹沢大山国立公園	2,845	2,245	1,913
県立自然公園	県立丹沢大山自然公園	3,252	3,164	3,337
	県立真鶴半島自然公園	1,155	1,160	971
	県立奥湯河原自然公園	1,027	969	891
合 計		27,928	27,574	24,783

注) 県勢要覧

8. 将来像

【かながわグランドデザイン基本構想(H24.3)-県総合計画】

● 県西部地域のめざすすがた

- ・豊かな自然や歴史・文化などの地域資源を生かし、国内外から来訪する多くの人々の多様なニーズに応える
- ・地域の特色を生かした様々な生産活動が営まれ、職・住・遊が一体となり、豊なくらしを実感できる活力と魅力あふれた地域づくり



● 県西部地域の政策展開の方向

- ・歴史、文化、豊かな水などの地域資源を活用し、交流を促進することにより、連携する地域に根ざした商工業や観光、農林水産業の振興
- ・道路網や漁港などの都市基盤や産業基盤の整備をすすめ、企業誘致を促進、地域主体のまちづくりや地域資源を活用した産業立地など地域活性化につながる土地利用を図る
- ・中心市街地の活性化や自然と都市が調和した居住環境の整備
- ・山梨県や静岡県と連携した、国内外からの観光客の誘致や環境対策、交通体系整備
- ・地震、津波への備えの強化

注) かながわグランドデザイン基本構想、平成24年3月、神奈川県

【かながわ都市マスタープラン地域別計画(H22.11)】

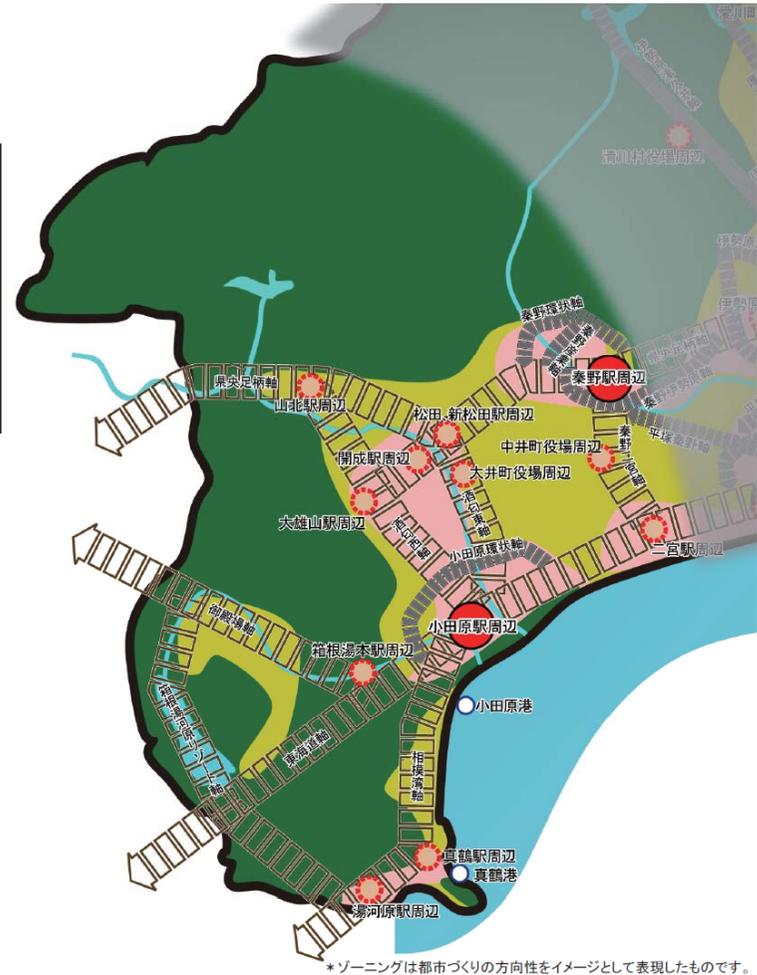
■ 県西部地域の将来都市構造

■ 県西部地域の都市づくりの目標

歴史と自然につつまれ、観光と交流による
にぎわいのある都市づくり

富士・箱根・伊豆に連なる豊かな自然を背景に、山・川・海・湖・温泉、歴史や文化などの観光資源に恵まれた「県西都市圏域」では、これらの資源の保全・活用を図りながら、隣接する山梨・静岡両県と連携しつつ国内外から多くの人を訪れ、交流する地域としての魅力の向上や、地域活力の向上に資する都市機能の集積を図り、職・住・遊が一体となって豊かな暮らしを実現できる都市づくりをめざします。

- **広域拠点**：「小田原駅周辺」
- 地域拠点**：「大雄山駅周辺」「中井町役場周辺」
「大井町役場周辺」「松田、新松田駅周辺」
「山北駅周辺」「開成駅周辺」「箱根湯本駅周辺」
「真鶴駅周辺」「湯河原駅周辺」
- **県土連携軸**：「県央足柄軸」を構成する「新東名高速道路」の整備、「相模湾軸」を構成する「西湘バイパス」の延伸、「東海道貨物線」の本格的な旅客線化
「酒匂東軸」を構成する「酒匂縦貫道路」の整備推進、「酒匂西軸」を構成する「酒匂右岸幹線」の整備や「大雄山線」の延伸
- **都市連携軸**：広域拠点「小田原駅周辺」の中心市街地を迂回する連携軸として、「小田原環状軸」を位置づけ



*ゾーニングは都市づくりの方向性をイメージとして表現したものです。

凡例	<環境共生>	<自立と連携>	
	複合市街地ゾーン	広域拠点	県土連携軸 (都市連携軸)
	環境調和ゾーン	地域の拠点	都市連携軸
	自然的環境保全ゾーン		

注) かながわ都市マスタープラン地域別計画、平成22年11月、神奈川県